

# 裏山・里山の 被害を防ぐ

「大地の再生」に関心を持つ尾道市内外の16人が口コミで集まった。この日は取材を兼ねた講座で無料だったが、ふだんの講座の参加費は1人3000円ほど



# スコップと 草刈り鎌でできる 裏山の防災

広島県尾道市「大地の再生講座」より

文=編集部 写真=大村嘉正



浄土真宗本願寺派 大通寺。この裏山が本日の作業現場

ふだんの手入れで裏山の災害から身を守る。2021年4月13日、そんなテーマのワークショップが「大地の再生 結の杜づくり」中国支部の講座の一つとして開催された。下村京子さん(59歳)と上村匡司さん(50歳)という「村々コンビ」を講師に、30～60代の総勢18人が集まった。

## 「大地の再生」で土砂崩れを防ぐ

場所は広島県尾道市の山あいにある大通寺。3年前の西日本豪雨で裏山の沢が崩れたりしたこともあり、大地の再生に関心を持った住職・大淵英範さんが下村さんたちを招いてワークショップの場を設けることになった。

大地の再生とは、山梨県在住の造園技師・矢野智徳さん(64歳)が指導する手法で、水と空気の目詰まりを回復させることで植物が元気になり、周囲の環境に好循環がもたらされるといふものだ。本誌の兄弟誌『現代農業』では、大地の再生によって果樹の生育が改善したり、耕作放棄地が再生したりする方法を取り上げてきた。今回はそれを防災・減災に役立てるのがねらい。水と空気の流れを回復させて環境を整えれば、山の土砂崩れなどを防ぐ効果があるというのだ。

矢野さん自身も、大地の再生の普及のために各地で実践講座を重ねてきた。その考え方や手法にふれて共感する人が造園技師や庭師などにも増えており、いま全国に広まりつつある。

下村さんも、もとはバラを中心としたガーデニングコーデイネーター。自宅は県内呉市にある。上村さんは京都で造園の仕事をしてきた方だ。